

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

### 校外行事も始まりました

10月からは、各学年の校外学習も再開されました。このまま感染状況が落ち着き、どの学年も計画通り進むことを祈るばかりです。同意書等への御協力も引き続きお願い申し上げます。



1年生の生活科見学。科学館に行ってきました。とても楽しかったようです。

2年生は生活科見学で、動物園での学習と桔梗屋さんでの工場見学をしてきました。



3年生は、はくばくと安藤家住宅、市立美術館を見学しました。

6年生の修学旅行。今年はコロナ対策として、7月と10月に分けて長野県に行きました。



木曾路 奈良井宿



国宝 松本城



小布施 班別行動



リンゴ狩り



善光寺参り



座禅体験



川中島古戦場跡



黒部ダム

## 心に明かりを

読書週間に当たり

「続・心のふしぎ なぜ? どうして?」(村山哲哉 監修)という本の中で、「幸せ」についていくつかの質問に答えています。最後に「けっきょく、しあわせになるにはどうしたらいいの?」という質問があり、次のように答えています。

「しあわせは、自分の心が決めるものです。そのため、自分が『しあわせ』と感じれば、しあわせになれます。」じつは、しあわせとは「なる」ものではなく、「感じる」ものです。私たちの周りには小さすぎてなかなか気づけないしあわせであふれています。その「近くて小さいしあわせ」をたくさん感じることで、それこそが一番大切なことだと言っているのです。では「近くて小さいしあわせ」を見つけたり感じたりするにはどうしたらいいのでしょうか。この本の中には、四つの方法が書かれています。

- ① 小さな「うれしい」を見つける。
- ② 「うれしい」が、誰のおかげか考えてみる。
- ③ 心の中で「ありがとう」と言ってみる。
- ④ いろいろな物を、「ありがとう」の気持ちで見してみる。

そして、こう続けて書かれています。

一つしあわせを見つけると、心に一つ小さなあかりがともります。そして、たくさんのしあわせを見つけた人の心は、たくさんの小さな星々がかがやく美しい夜空のようになります。

そんな心を作ることが、本当のしあわせなのかもしれません。もちろん大志を抱くことは大切ですが、あまりにも大きすぎる夢を見続けていることよりも、「近くて小さいしあわせ」を見つけたり感じたりして、「ありがとうの気持ち」で毎日過ごし、心にたくさんの明かりをともすことこそ『真の幸せ』とだと言えるのでしょう。子供たちのちょっとした成長、何気ない一言、日常の触れ合い・・・そんなところに幸せを感じていきましょう。もちろん、保護者の皆様からも、子供たちに小さな幸せをたくさんたくさん与えてあげてください。学校の図書室にもある本なので、ぜひ読んでみてください。



## マザーテレサの言葉から

マザーテレサの言葉に、次のようなものがあります。

『愛という言葉の反対の意味は、憎しみではなく、無関心であるということです。』

「世の中から切り離されてしまったことが一番つらい」、「誰からも見向きもされなくてつらい」、こんな言葉が発せられたテレビのドキュメンタリー番組を見たことがありました。学校生活の中におけるいじめの一つにシカト、いわゆる集団による無視があります。直接手を出さなくても、卑劣な行為で許されざることです。新型コロナウイルス蔓延に伴い、人と人との関係に何となくぎくしゃく感が出ているといわれています。幸い本校児童の間には、顕著な傾向が見られていません(不安や小さな悩みはたくさんあるのかもしれませんが)。今後も、隣の人に優しさを持ち、同じ学級、学年、学校、そして地域の皆さんに親しみを感じながら、心豊かに成長してくれることを願っています。

